

- にいがた青年海外協力隊を育てる会 会報紙 -



なじらね.jp

The News Letter of The Supporting Organization of JOCV NIIGATA

なじらね

春

どっとびえーびー

平成21 (2009) 年 3 月 31 日 (火) 発行 - 創刊号 -



[発行人] 「にいがた青年海外協力隊を育てる会」 会長 平山征夫 / 事務局長 横山容司郎
The Supporting Organization of JOCV NIIGATA

[事務局] 〒950-2063 新潟県新潟市西区寺尾台3-6-5 有徳ビル3F (株)アルファブライト 内
Tel. 025-268-0200, Fax. 025-260-1226, E-mail n-sodaterukai@alpha-bright.co.jp
URL <http://www.n-sojocv-najirane.com>

[編集人] 広報文化専門委員会 山田規央

- NAJIRANE Headline -

- 【巻頭言】 当会の会報紙“なじらね.jp”の発刊にあたって・・・P-1
- 【志】 「にいがた青年海外協力隊を育てる会」が発足しました・・・P-2
- 【式】 青年海外協力隊平成20年度3次隊が任国へ赴任！・・・P-3
- 【参】 国際ソロプチミスト新潟西の会合で当会をPR・・・P-3
- 【四】 派遣中隊員&帰国隊員よりメッセージ・・・P-4
- 【五】 派遣中隊員から新潟にSOS!!・・・P-5,6
- 【六】 現職参加制度について・・・P-7
- JICAボランティア用語、他・・・P-8

【巻頭言】 当会会報紙 “なじらね.jp” の発刊にあたって



にいがた青年海外協力隊を育てる会
会長 平山 征夫

昨年秋、「にいがた青年海外協力隊を育てる会」の会長に就任しました。どうぞよろしくお願いいたします。全国的には遅い発足ですが、協力隊の派遣事態としては、遜色ない実績を残してきた本県ですので、育てる会としても早く活動を追いつかせ、サポートの実績を上げていきたいと思っております。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。今般発刊となります会報紙「なじらね.jp」は、そのための会員相互の意思疎通と情報交流に役立つものと大いに期待しているところです。

世界遺産を観る目的で訪れたボリビアで、あまりの貧困とそこからの脱却の困難さに唖然として帰ってきました。2006年の先住民大統領による社会主義政権の成立も、貧困さ故でしょう。この国に先進国の支援は不可欠なのは明らかですが、こんな国が地球上にいくつあるのだろう。そして誰が責任を持って支援していくのだろう。

海外協力隊と育てる会のやるべきことは無限にありそうです。がんばりましょう。

【巻】 「にいがた青年海外協力隊を育てる会」が発足しました！

「にいがた青年海外協力隊を育てる会(会長 平山征夫)」の設立総会が、昨年(平成20年)11月30日(土)、新潟会館(新潟市中央区)において行なわれ、当会が華々しく発足致しました。昭和51(1976)年4月、民間の立場で広く国民に青年海外協力隊事業への理解を求め、協力隊事業に対する民間の支援の輪を広げていくことを目的に、社団法人「協力隊を育てる会(現会長 足立房夫)」が発足しました。以降、全国の各地域(都道府県)で育てる会が次々に発足し、地元企業、学校、自治体、協力隊OB会(青年海外協力協会JOCA)、JICA国内機関と連携しながら地域性を活かして、独自に活発な協力隊支援活動を展開しています。

当会は、昨年5月に発足した兵庫県の「JICA海外ボランティアひょうご応援団(会長 岩槻邦男)」に次いで全国37番目の組織となります。新潟県民、地元の各企業・団体の皆様のご理解とご協力を得ながら、新潟ならではの地域性を活かした活動を行なっていきたくて思っております。設立発起人、役員および活動については下の図表をご参照願います。今後ともどうぞご指導ご支援のほど、宜しくお申し上げます。

尚、設立総会后、(財)新潟県国際交流協会、(社)協力隊を育てる会の後援のもと、設立記念公開講演会を開催しました。その後の設立記念パーティーでは、太鼓パフォーマンス(飛龍会)、スライドショー等で盛り上がりました。

【設立記念公開講演会 プログラム】

1. 「協力隊を育てる会の意義と全国の動向」 (社)協力隊を育てる会副会長 青木 盛久 氏
2. 「今、求められるJICAボランティア」 長岡市民センターセンター長 羽賀 友信 氏
3. 「新潟県出身JICAボランティアOB&OGのパネルディスカッション」
シニア海外ボランティアOB 佐藤 昭二 氏 (平成12年度トンガ王国,平成17年度ブータン王国派遣 / 建築施工管理)
青年海外協力隊OG 佐野 智子 氏 (平成18年度タイ王国派遣 / 作業療法士)



羽賀氏による講演



多くの人が参加されました

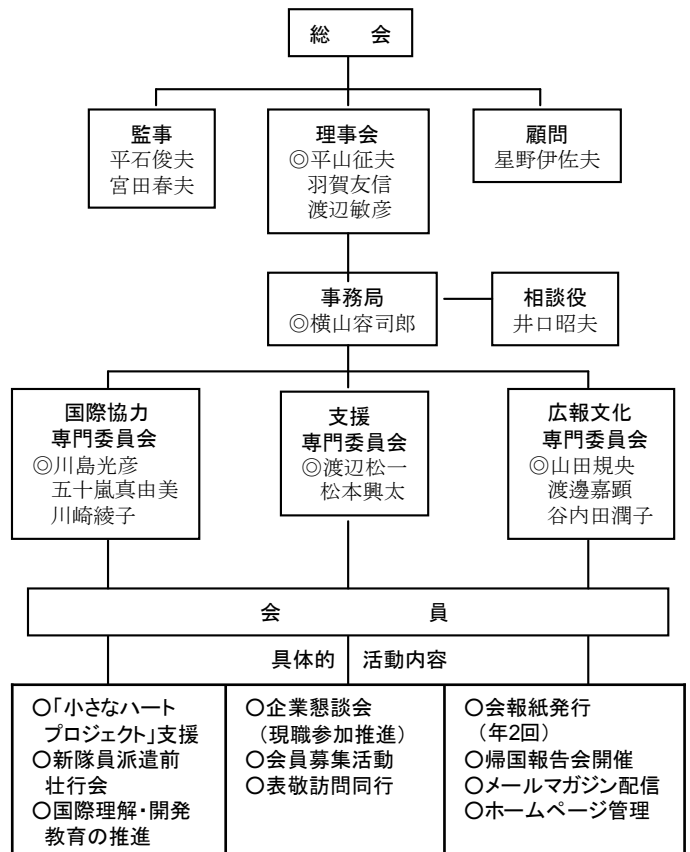


笑いあいのパネルディスカッション
(左から、佐藤氏、佐野氏、青木氏)

<設立発起人>

役職	氏名	所属
顧問	星野 伊佐夫	新潟県会議員
会長	平山 征夫	新潟国際情報大学 学長
副会長	羽賀 友信	長岡市国際交流センター センター長
副会長	渡辺 敏彦	NSGグループ学校法人 新潟総合学院 国際総合学院 学長
理事	石渡 栄一	新潟県青年海外協力協会 初代会長
理事	小川 浩司	相互タクシー 社長
理事	小池 泰子	(財)エイ・エフ・エス日本協会 新潟県代表
理事	堂前 洋一郎	県立新発田病院 副院長
理事	羽吹 壺	新潟県青年海外協力協会2代目会長
理事	広川 俊男	新潟産業大学 学長
理事	廣川 正秋	(株)アルファライト 代表取締役社長
理事	藤田 純子	新潟県青年海外協力協会3代目会長
理事	平石 俊夫	新潟味のれん本舗 代表取締役社長
監事	宮田 春夫	新潟大学 教授
	飯田 浩三	株式会社ホテル泉慶 代表取締役社長
	大島 誠	(株)上越タイムス 代表取締役社長
	大橋 武紀	株式会社新潟総合テレビ 代表取締役社長
	大森ゆかり	国際ソロブチニスト新潟西 会長
	大矢 良太郎	(財)柏崎地域国際化協会 会長
	押木 貢	十日町市議会議員
	小柳 直太郎	小柳建設株式会社 代表取締役社長
	小西 慧子	興国寺住職
	齋藤 君枝	新潟大学医学部保健学科 准教授
	佐々木 薫	新潟市議会議員 市民厚生常任委員長
	澤 秀一郎	新潟県倫理法人会 会長
	竹石 松次	株式会社新潟放送 代表取締役社長
	玉 知夫	株式会社新潟テレビ21 代表取締役社長
	田村 巖	長岡商工会議所 会頭
	地主 正人	株式会社新潟博報堂 代表取締役社長
	中山 四郎治	新潟県民エフエム放送株式会社 代表取締役社長
	南雲 秀雄	新潟青陵大学 教授
	本間 栄三郎	にいがたNGOネットワーク 代表
	前川 磐	株式会社テレビ新潟放送網 代表取締役社長
	増村 勉	株式会社エフエムラジオ新潟 代表取締役社長
	森 民夫	長岡市 市長

<組織図と活動>



(写真提供: 酒井直行)

【式】 青年海外協力隊平成20年度3次隊が任国へ赴任！

青年海外協力隊・平成20年度3次隊の新潟県出身新隊員3名が、平成20年12月末に各任国へと出発しました。派遣前壮行会を新潟県青年海外協力協会と共に開催し、3名に激励をさせていただきました。当会としては、開発途上国で活躍する新潟県出身隊員の活動を地域ぐるみでサポートしていけるように、取り組んでいきたいと思っています。

3名それぞれの紹介と派遣にあたっての抱負は次の通りです。

- ①田村美由紀さん 任国：スリランカ民主社会主義共和国／職種：青少年活動／出身：見附市
- ②西川真里生さん 任国：ガーナ共和国／職種：村落開発普及員／出身：新潟市
- ③廣田伸子さん 任国：ネパール連邦民主共和国／職種：村落開発普及員／出身：十日町市

西川さん

「私は水と衛生、井戸に関する要請でガーナへ行きますが、任地へ行って一体自分に何が出来るのか少し不安はあります。しかし、任地の人々と何が問題でなぜ問題なのか、何を改善すべきなのか共に考え活動していきたいと思っています。適度に、適切に、適格に(?)がんばりたいと思います！」

田村さん

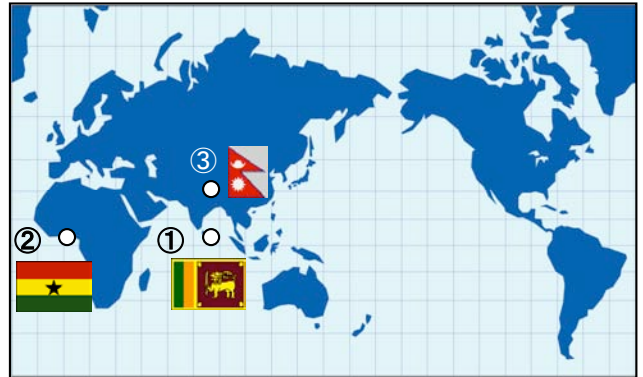
「派遣にあたり私をサポートしてくださった全ての人、特に家族に対する感謝の気持ちを忘れずに任国で活動していきたいと思っています。」



廣田さん

「現地では共に活動する住民の方々と一緒に悩み、考え、時々はぶつかり合いながら刺激しあひながら、何かを共有できたらよいなあと思っています。」

平成20年12月18日 新潟県庁にて新隊員が森新潟県副知事を表敬訪問



※国旗&地図の引用：世界地図・世界の国旗(<http://www.abysse.co.jp/world/>)



平成20年12月18日
新潟市内において
壮行会を実施
(前列3名が新隊員)

(写真提供：五十嵐真由美)

【参】 国際ソロプチミスト新潟西の会合で当会をPR

平成21年1月16日(金)、新潟市内で開催された国際ソロプチミスト新潟西(大森ゆかり会長)の例会(出席28名)において、大森会長のご配慮により当会のPRをさせていただきました。大森会長は当会発起人メンバーの一員であり、また同会は当会の団体会員にもなっています。当会理事で新潟県青年海外協力協会初代会長でもある石渡栄一OV(S45年度/マレーシア/工作機械)と、当会広報文化専門委員会委員長で昨年帰国した青年海外協力隊員の山田規央OV(H18年度/タイ王国/理学療法士)が参加し、石渡氏からは協力隊の歴史と当会の今後の展望、山田氏からはスライドを用いて協力隊活動の実際について、それぞれ説明をさせていただきました。同会は既に国内外において様々な社会貢献活動を実施されております。ご出席の皆様におかれましては、熱心に私たちの話を聞いて下さり、当会の理念や活動について改めてご理解とご協力をお願いをさせていただきました。



演壇にて(左から山田氏、石渡氏、大森会長)



石渡氏の講演

(写真提供：山田規央)

【四】 派遣中隊員&帰国隊員よりメッセージ

アフリカのニジェール共和国で活動中の青年海外協力隊員・白井綾さんと、かつて同国で活動していた元青年海外協力隊員(OV)・谷内田潤子さんの現在の心境を皆様にご紹介します(兩人とも新潟県出身)。

<白井綾さん(平成20年度2次隊/任国:ニジェール共和国/職種:幼児教育)>

明けましておめでとうございます。
今年もよろしくお祈りします。
(中略)
私は、だいぶこちらの環境にも慣れました。お腹も何
度か壊していますが、、、元気です。
こちらの人たちは、挨拶おしゃべり好きで、目的地に
着くまで容易ではありません。
暑い国、毎日のんびり過ぎています。
活動はこれからが本番。今は、幼稚園を巡回しながら
何ができるかと試行錯誤です。言語の勉強もして、もっ
ともっと話したいです。
では、今年も素敵な1年になりますように。

白井綾(H20-2 幼児教育)

※H21.1.8 五十嵐真由美OV(当会 国際協力専門委員)受信

JOCV from Niger to Niigata



(写真提供:白井綾)

<谷内田潤子さん(平成17年度1次隊/任国:ニジェール共和国/職種:感染症対策)>

ニジェールから帰国後、県内の病院に再就職し早一
年が過ぎようとしています。ニジェールの人々からも
らったたくさんの笑顔、今度は私が日本人の方々へ
毎日笑顔でがんばっています。
白井さん、ニジェールの人たちはホントにおしゃべ
り好きですね。私も歩いて10分の配属先まで、毎日1
時間以上かけて通っていました。
暑さはこれからが本番です。身体に気をつけて、ニ
ジェールで過ごす時間を思いっきり楽しんで下さい。
帰国したら、ニジェールの言葉でおしゃべりしま
しょう。

谷内田潤子(H17-1 感染症対策)

OV from Niigata to Niger



(写真提供:谷内田潤子)



Republic of Niger

【任国プロフィール】

- 1.面積:1,267,000km²
- 2.人口:1,370万人(2006年、世銀)
- 3.首都:ニアメ(Niamey)
- 4.民族:ハウサ族、ジェルマ・ソンガイ族、カヌウリ族、
トゥアレグ族、トゥーパー族、プール族等
- 5.言語:フランス語(公用語)、ハウサ語等
- 6.宗教:イスラム教約75% その他はキリスト教、原始宗教



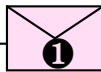
※国旗、地図、プロフィールの引用:外務省HP (<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/niger/index.html>)

【五】 現役青年海外協力隊員が新潟にSOS！！

(1) 新潟発！中古楽器が海を越えてバヌアツ共和国の子供たちに届く！

昨年9月、現在バヌアツ共和国で活動中の青年海外協力隊員・小野澤由華さん(職種:小学校教諭/新潟県出身)から五十嵐真由美OV(当会 国際協力専門委員)の元に下記のSOS Eメールが届きました。

※バヌアツ共和国は、オーストラリアの東方、大洋州に位置する島国で、新潟県とほぼ同じ広さの国土に、新潟県の人口の約1割の国民が住んでいます。国民の大多数はキリスト教を信仰しています。



【SOS Eメール (平成20年9月 受信)】

こんにちは、20-1次隊 小学校教諭でバヌアツの小野澤由華です。日本はこれから秋に入り、気候も寒くなるころだと思いますがくれぐれもお体にはお気をつけください。さて、今回新規で小学校の音楽教育に携わっていますが、楽器の整備で少しお願いしたいことがあります。私の配属先からの要請として、リコーダーと鍵盤ハーモニカの使い方の指導をしてほしいという依頼があるのですが、学校には楽器はなく、歌唱指導、リズム指導にとどまっています。そこでお願いがあるのですが新潟県でいらなくなったリコーダー、鍵盤ハーモニカを集めて送っていただくことは可能でしょうか？ご一報いただくとありがたいです。よろしくおねがいします。

小野澤由華 (H20-1 バヌアツ 小学校教諭)

このメールを受けて、新潟県内の協力隊OB・OG(OV)らが中心となり、使わなくなった中古楽器の収集を呼び掛けたところ、鍵盤ハーモニカ17台、ソプラノリコーダー4本、アルトリコーダー5本が集まりました。そして当会設立総会後の記念パーティーの場を借りて募金活動を行ない、そのお金を輸送費にあて、今年1月31日に無事、小野澤さんが待つバヌアツのポートビラに到着しました。



【お礼のEメール (平成21年2月1日 受信)】

この度はわが配属校のために真心の楽器の寄付、本当にありがとうございました。1月31日に無事バヌアツ、ポートビラに上陸し、donation ceremony が盛大に行われました。五十嵐さんから皆さんがどのように楽器を集めてくださったのかお聞きし、それをスピーチしました。まだ子どもたちは楽譜も読めない状態なので楽器を使うのはもう少し後になるかとは思いますが、折を見てこの楽器が皆さんの真心で届けられていることを話し、大切に使いしていきたいと思えます。五十嵐さんをはじめ、ご協力いただいた協力隊のOB・OGの方、また関係者の方々には心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

小野澤 由華 (H20-1 小学校教諭 バヌアツ)



(←) 学校側に楽器をhand overする小野澤さん

(→) バヌアツ政府関係者らの前でスピーチをする小野澤さん



(写真提供:小野澤由華)

小野澤さんの活動は、配属校への楽器の提供に終わることなく、まさに「これからが本番」と言ってもいいと思います。みなさん、小野澤さんや現地の生徒たちを温かく応援して下さい！

楽器提供や募金にご協力頂いた方々には、改めて心より御礼申し上げます。



Republic of Vanuat

※国旗・地図の引用:外務省HP

(<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/vanuatu/index.html>)



(2) ベトナムの視聴覚障がい児に図書のご寄附をお願いします！

今年1月、新潟県出身隊員として現在ベトナム社会主義共和国で活動中の青年海外協力隊員・奥平百合さん(職種:美術指導)から五十嵐真由美OV(当会 国際協力専門委員)の元下記SOS Eメールが届きました。

<SOS Eメール (平成21年1月23日 受信) >



あけましておめでとうございます。 (中略)

私の任地は、聴覚障害、視覚障害を中心とした障害児の学校です。ここで、4歳から20歳にいたるまでの子供(学年は幼稚園クラスから5年生まで。ただし、習熟度によってクラス分けをされているので、年齢はばらばらです。)に図工、美術、の授業を行なっています。ここへ来て、学校内に図書室がない事に大変驚きました。私自身、子供の頃から本の虫で、読書中は話しかけられても気がつかない程。読書の効用は、私が今数え上げる事もないほど日本では認知されていると思いますが、特に、聴覚障害児には、外世界からの「お話」がとても貴重です。言いたい事が自由にならない様子、明らかに語彙が少ないこと、など気になる事はたくさんあります。自らの意思で学びたい! 楽しい! これはなんだろう? と思ってもらえるよう、是非、図書室を作りたいと思っています。とはいうものの、ベトナム国内にはなかなかよい絵本が見つかりません。(勿論、翻訳されたものなど、あるにはあるのですが。) また、紙芝居なども、目にする事がありません。日本には豊かな図書文化があったな! と改めて気付かされました。さて、思いばかり書きすぎましたが すなわち、**絵本が欲しい!** というのが結論です。写真のたくさん入ったもの、図鑑、紙芝居、折り紙、工作、料理の本などがあると嬉しいです。(折り紙など、かなり器用に自分で読み解いて作ってしまいます。) 日本語の本でかまいません。ご協力よろしくお願いします。

奥平百合 (H20-1 ベトナム 美術)

このメールを受けて、現在、奥平さんの配属先の学校に寄附するための各種書籍を募集しております。この活動は、単なる寄附行為に終わることではなく、生徒たちの「学ぶ楽しさ」を引き出すこと、それにより学校側で図書館建設へのきっかけ作りとすることを、大きな目的としています。新品でなくても、みなさんのお家の押し入れで眠っている本でも構いません。もちろん日本語で構いません。奥平さんは、現地で日本語を学ぶ大学生に勉強を兼ねて翻訳をしてもらうことを計画しています。

このように私たちの活動は、現地人の自助努力を促すきっかけになると思います。どんな物でも、「捨てればゴミ、活かせば資源」。ベトナムの障がい児たちの笑顔のために、貴重な資源を新潟から送りましょう。

- 絵本・図鑑等募集のご案内 -

絵本と図鑑がほしい

家の中に眠っている「絵本」や「図鑑」等はありませんか?
 もし、いらなくなった絵本などがあつたら
 ベトナムの子供達に譲ってください。

何故、本がほしいの?

現在ベトナムで美術指導の青年海外協力隊員として活動中の奥平百合さん(新潟県出身)が現地の子供達のために図書館を作ろうと頑張っています。
 奥平さんの活動先は、聴覚障がい、視覚障がいのある人達のための学校です。
 しかし、その学校には図書館はおろか、十分な本がありません。
 子供達の「学ぶ楽しさ」を伸ばすため、(文字が多い本より) **絵や写真がいっぱい載っている本**を集めています。

絵本 図鑑 ナショナルジオグラフィック ニュートン 料理の本 工作の本 紙芝居 折り紙の本 その他、美術系の図書や資料

日本語の本で大丈夫なの?

大丈夫です。ベトナムの大学生に翻訳してもらうことにしました。
 日本語学科の学生は500人。
 彼らの学習にとっても、良い教材になるので、ご安心ください。

にいがた青年海外協力隊を育てる会事務局
新潟市西区寿屋台3-6-5 有徳ビル3F (株)アルファブライト内
 電話 025-268-0200 FAX 025-260-1226 e-mail n-sodaterukai@alpha-bright.co.jp
 ※募集締め切り: 2009年5月頃まで

(絵本・図鑑等募集のチラシ)

1) 募集物品: 学童期の子供むけの書籍

(例) 絵本、図鑑、料理の本、工作の本、折り紙の本、
 ナショナルジオグラフィック、ニュートン、紙芝居、
 その他(美術系の図書や資料)

※ただし、次の物はお受けできません

- ・傷みの程度が強い本
- ・国語の教科書や文庫本等、文字のみで構成される本
- ・その他、青少年の健全育成上不要と考えられるもの

2) 募集期限: 平成21年5月頃

3) 募集窓口: にいがた青年海外協力隊を育てる会事務局

(株)アルファブライト内

お問い合わせ Tel. 025-268-0200 Fax. 025-260-1226

E-mail ; n-sodaterukai@alpha-bright.co.jp

※集まった本は、当会が責任を持って現地へ送ります。

どうぞ皆様の温かいご協力を宜しくお願い申し上げます。



*Socialist Republic of
Viet Nam*

※国旗・地図の引用: 外務省HP

(<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/vietnam/index.html>)



【六】 現職参加制度について

当会としては今後、新潟の人々や社会に対して、JICAボランティアについて啓発していくとともに、参加応募についても促進していきます。実際、応募への気持ちはあっても、、帰国後のことを考えて応募に踏み切れない方々も多いのではないのでしょうか？おそらくその不安の一つであろう、「仕事」の面で、勤務先を退職しなくても参加できる仕組みがあることを、まず皆さんに知っていただきたいと思います。以下に、現職参加制度の概要を紹介します。

(JICA青年海外協力隊事務局発行「現職参加制度のご案内 平成19年10月」より内容を抜粋)

1. JICAボランティア事業とは

独立行政法人国際協力機構(JICA)は、開発途上地域の住民と一体となって行う国民等の協力活動を志望する個人を募集し、選考及び訓練を受けた者を開発途上地域に派遣し当該開発途上地域の経済及び社会の発展または復興に協力することを目的として、次のボランティアを海外に派遣しています。(次の4つのボランティアを総称しJICAボランティアと呼んでいます。)

(1)青年海外協力隊 (2)シニア海外ボランティア (3)日系社会青年ボランティア (4)日系社会シニアボランティア

JICAボランティア事業の基本姿勢は、「現地の人々と共に」という言葉に集約されています。つまり、派遣された国の人々と共に生活し、働き、彼らの言葉で話し、相互理解を図りながら、彼らの自助努力を促進させる形で協力活動を展開していくことです。

2. 現職参加制度とは

現職参加制度とは、現在勤めている人が「休職」などの形で所属先に身分を置いたままボランティアに参加できる制度であり、具体的には次の法律や条例、民間企業等の休職制度等に基づくものを指します。

(1)国家公務員:

①「国際機関等に派遣される一般職の国家公務員の処遇等に関する法律」(昭和45年法律第117号)

②「国家公務員の自己啓発等休業に関する法律」(無給)(平成19年法律第45号)

(2)地方公務員:

①「外国の地方公共団体の機関等に派遣される一般職の地方公務員の処遇等に関する法律」(昭和62年法律第78号)及びそれに基づく各地方公共団体の条例等

②「地方公務員法の一部を改正する法律」(平成19年法律第46号)に基づく各地方公共団体の「自己啓発等休業」(無給)に関する条例等

(3)その他:

民間企業が有するボランティア休暇・休職制度、ボランティア参加のための労使協定や社内規定等

これまでボランティア派遣の前例のない企業・団体においても、職員又は社員がJICAボランティアに応募するのをきっかけに、ボランティア現職参加のための「休職」等の身分措置を認める例も増えつつあります。現職参加制度で派遣されたボランティアは、途上国での活動を終えると元の所属先に復職します。

ボランティアとしての活動期間は、それまでに蓄積した技術や経験、知識を活かし、会社から離れて純粋に途上国あるいは日系人社会の人たちのために役立つことができる貴重な機会となります。もちろん、異文化のなかでの協力活動ですから、さまざまな困難に直面することもあります。それらも含めて国際人としてのキャリアアップに大いに資するものと考えています。

ボランティア参加によってプラスになるのは、参加者本人だけではなく、帰国後に復職した職員又は社員が、国際感覚を得た視野の広い人材として業務に与える影響は大きく、周囲の職員又は社員を刺激することになるでしょう。(→)

<職員又は社員をJICAボランティアに参加させるメリット>

- 社員又は職員を通じ、企業・団体が国際貢献を行える。
- 語学力の向上を含めた国際感覚が身につく。
- プロジェクトの責任の立場を担うことにより交渉能力や協調性が培われる。
- 異文化において一人で生活することにより、忍耐力や的確な判断力が身につく。
- 仕事に前向きに取り組み、周りの社員、社内の雰囲気を活性化することができる。

3. 人件費補てん制度の概要

人件費補てん制度とは、ボランティアの所属先に対して、研修(訓練)期間及び派遣期間中、人件費を補てんすることによってボランティアへの参加環境を整え、より一層円滑な事業の実施をするために設けられた制度です。

人件費補てんの対象期間は、ボランティアとしての研修(訓練)期間及び派遣期間であり、かつ所属先がこれに対し有給休職の措置を取った場合の期間です。人件費補てんを受けるには、ボランティアの研修(訓練)期間及び派遣期間中も所属先が従前の給与の全部又は一部を支給することが前提となっています。

なお、人件費補てんの対象となるのは、ボランティアが常勤の職員として、当該応募にかかる募集期間の初日の一年前に応ずる日以前から引き続き在籍している企業等に限りです。また、派遣時に60歳以上のボランティアの方、派遣期間が30日未満の方については人件費補てん制度の対象にはなりません。(※別添資料参照)

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆ JICAボランティア用語 ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

JICA: Japan International Cooperation Agency 独立行政法人国際協力機構 (通称 ジャイカ)

JOCV: Japan Overseas Cooperation Volunteer(s) 青年海外協力隊 (応募時年齢 20-39歳)

SV: Senior Overseas Cooperation Volunteer(s) シニア海外ボランティア (応募時年齢 40-69歳)

OV: Old Volunteer(s) JOCVまたはSVのOBやOG、元隊員

派遣隊次について:

平成18年度までは単年度に3隊次に分けての派遣でしたが、その後は4隊次に分けての派遣となっています。またこの頃より、それまで別々の時期・場所で行なっていたJOCVとSVの派遣前訓練が一緒に行なわれるようになりました。表現上、「昭和50年度2次隊」というのは昭和50年度の第2次派遣部隊のことで「S50-2」と略され、「平成20年度4次隊」は平成20年度の第4次派遣部隊のことで「H20-4」と略されます。65日間の派遣前研修後、2週間前後の準備期間をはさみ、およそ6月下旬頃(1次隊)、9月下旬頃(2次隊)、12月下旬頃(3次隊)、3月下旬頃(4次隊)に任国へと派遣されます。

☆☆

協力隊の精神 ~ Volunteer's Spirits

【青年海外協力隊 五カ条】

- 其ノ壹、 共に住んで異民族の心を知る。
- 其ノ貳、 その住む国を鏡に日本の姿を見る。
- 其ノ参、 こうして、実践裡に、大いなるもの、国と世界に開眼する。
- 其ノ四、 そのときも、そのあとも、おおらかな夢に生き、
- 其ノ五、 静かなる人間革命に先駆ける。

任国では、日本とは歴史や文化、人々の価値観も異なります。活動場所のほとんどは人・物・金など「ないないづくし」の状態です。楽しいことよりつらいことのほうが多いでしょう。壁に突き当たることもあるでしょう、出口のない悩みに落ち込むこともあるでしょう。そんなときに、自らに問いかけてほしい「青年海外協力隊五カ条」を。(協力隊第2代事務局長 伴正一氏の語録)

※文の引用: JICA青年海外協力隊 HP (<http://www.jica.go.jp/activities/jocv/index.html>)

INFORMATION

1. 平成21年度 JICAボランティア春募集説明会のご案内

- ①長岡会場 @長岡市国際交流センター・地球広場 (長岡市大手通2-2-6/0258-39-2714)
4月4日(土) 10:30 - 12:30 シニア海外ボランティア
14:00 - 16:00 青年海外協力隊
- ②新潟会場 @新潟県国際交流プラザ (新潟市中央区万代島5-1 万代島ビル2F)
4月19日(日) 10:30 - 12:30 シニア海外ボランティア
14:00 - 16:00 青年海外協力隊

2. 第1回 にいがた青年海外協力隊を育てる会総会のご案内

5月17日(日) 10:00 - 12:00 @新潟会館 (新潟市中央区幸西3-3-1/025-247-9307)



にいがた青年海外協力隊を育てる会
The supporting Organization of JOCV NIIGATA

สวัสดีครับ (サワディークラップ) このたび、当会の会報紙創刊号を発行させていただきました。「なじらね(元気ですか?)」を新潟発の国際交流の合い言葉に!ということで本紙の名称が決まりました。「天の時、地の利、人の和」を活かした広報活動を通し、新潟の皆様と共に歩んで行きたいと思っております。今後どうぞ宜しくお願いします。

by พริกไทย (プリックタイ)